

平成28（2016）年度

## 第二回 吹田市立博物館協議会

### 議 事 録（要旨）

日 時 平成28（2016）年 12月2日（金） 午後1時30分～午後4時00分

場 所 吹田市立博物館 二階 講座室

出 席 一瀬・村田・広瀬・橋爪・辻本・岩崎・大元・大森・喜田委員  
（欠席 佐久間・田中・岸本・伊藤委員）  
佐久間・岸本・伊藤委員委任状提出

【1 開 会】 藤井副館長（出席状況の確認）

（副館長）出席委員数は全委員13名の過半数を超えています。

【2 挨拶】 中牧館長 挨拶

【3 職員の異動】 藤井副館長

\*職員異動【博物館組織図・職員配置図（資料P2）参照】

今年度組織改正により生涯学習推進室がなくなり、地域教育部の下に文化財保護課という組織にかわっています。

地域教育部 部長川下が地域教育部理事へ異動

地域教育部 次長木戸が地域教育部長に着任。（11月1日着任）

庶務担当の尾花主査に代り池田主幹が着任。（10月1日着任）

【4 傍聴者】 なし

【5 案件（1）事業報告（平成28年度前半～）】

あらたな事業や100人を超える参加者があった行事について事務局から説明

- ・企画展「魅せる！青と緑—浪華文人画家・金子雪操—」の展示に合わせて「さわる月間」を開催。
- ・〈企画展〉〈さわる展〉のオープニングイベント参加者は333人。
- ・夏季展示「まもる自然・つくる環境Ⅲ—どっちがどっち！？」100名以上のイベントが多くあった。
- ・秋季特別展では高槻市立今城古代歴史館の森田特別館長の講演会で100人を超える参加者があった。
- ・出張展示を岸部プラザで開催。今年も1,000人を超えた。
- ・出前講座として実施した千里山まちびらきシンポジウム「佐井寺の歴史」130人。
- ・西国街道リレートーク140人
- ・吹田高校との高博連携事業では、今年度初めての取組みとして「吹田高校DAY」を開催。121人参加があった。

- ・研修事業の博物館実習では8日間で14大学延べ132人が参加。
- ・過去に平成12年と16年に実施した市民向けの学芸員体験講座を久しぶりに実施した。全10回隔週で実施し、平均12～13人の参加者があった。これがきっかけとなり、ボランティアや夏季展示実行委員会への参加者が増加した。
- ・連携事業である北大阪ミュージアムメッセは約3,500人の参加者があった。

#### 討論

(議長) 夏季展示実行委員会について説明してください。

(事務局) 実行委員会は、夏季展示についての企画や運営に携わる市民を公募した組織で、前回の協議会(6月2日)以降で参加者がのべ474名となっています。

(議長) 今年度入館者数推移の所見をお願いします。

(副館長) 観覧者・講座等受講者・入館者数についての傾向は昨年と大差はありません。

展示別では春季特別展が4,121人で、過去の数字と比べると良好ですが、前年の西村公朝展が非常に良好だったため、前年度比では約-2,000人となります。企画展については今年度は従来の「さわる」展示から美術の展覧会と「さわる」月間の同時開催に変更し、入館者は若干減少しました。夏季展示は、観覧者と講座等受講者どちらも大幅に増加。入館者数5,773人で、前年度比+1,950人。イベントだけでなく展示室に入室頂く目標が少し実ってきたようです。実習展は入館者-86人で減少していますが、観覧者は+34人で僅かですが増加。秋季展は11月末現在では少し苦戦をしています。

年齢別来館者数の傾向は変わりません。オーソドックスな展示は、40～60代が多く、夏季展示は、40代が少し多くなっています。小学生保護者のうち高学年保護者が増加したと推測されます。実習展は、各世代が来館されています。どの展示においても20代が一番少ないのが課題。

男女別来館者数は、オーソドックスな展示の場合、男性が多い。企画展は、昨年まで「さわる」展では圧倒的に女性が多かったが、今年は美術がテーマであったため男性も増え、男女で逆転しています。夏季展示はお子様と一緒に来館された女性が多く見受けられます。実習展はほぼ拮抗しています。

住まい別来館者数では、春季特別展・企画展・夏季展示は、吹田市内が多いのは、テーマが春季特別展では千里山住宅、企画展では、地元の画家金子雪操であったため強い傾向となって表れたと考えます。実習展が市外が優位となったのは実習生の関係者が多く来館されたためと考えます。

展示評価は展示良かったと評価した観覧者の割合は9割以上で従来通りですが、「とってもよかった」が少し減少しています。唯一「とってもよかった」が増加したのは実習展での41%で、+6%となり、評価をされつつあると思います。

リピーター率は、概ね同じ傾向です。初めて来館された方が多いのは、実習展の特徴です。

来館のきっかけは市内と市外で明確に分かれ市内は全て市報がトップで、チラシも多いです。特徴として公園内掲示板や看板を見て来館される方が意外と多いことです。市外では、展示によって異なりますが、千里山住宅展は、ホームページや知人の口伝え等で来館されており、住宅のファン層が来られたものと考えます。オーソドックスな所ではチラシが多いです。

(委員) 市外は遠方とか近隣市等があると思うが、区別はしているか。市外の分布、参加のあり方、遠方の地名等が知りたい。

(副館長) アンケートでは地名の欄があり、データは採っていますが、資料のグラフには記載していません。次回から記載します。傾向は市外では大阪府内が多いです。その他、京阪神間が多くなります。展示テーマがローカルではない場合はさらに広域となります。昨年の西村公朝展等は、関東や地

方等からも来館されています。

(議 長) 近つ飛鳥博物館は、地元が少なく一番多いのは阪神間です。当館は阪神間に属し、道路環境が良好なので京阪神間の利用者状況が参考になります。今後の広報戦略も含め、来館のきっかけ等は役立つと思います。

#### 【5 案件(2) 事業計画(平成28年度後期～29年度前期の事業計画案)】

事務局から説明

特別展等展示中期計画では、収蔵庫の増設が決定しますと、平成30年度の春季特別展も含め、平成31年度から企画展として毎年西村公朝関係の展覧会を行います。収蔵庫の件はまだ決定していません。昨年は実施計画は認められましたが、予算は認められませんでした。今年度も引き続き要求しています。実施計画における優先順位は、西村公朝作品を収蔵するための博物館収蔵庫増設事業第一番目、第二番目が特別展示室増設事業、第三番目が紫金山公園ビジターセンター整備事業となります。

(議 長) 全体も関係しますが、収蔵庫計画により年度展示計画が逐次変更ですか。

(副館長) 西村公朝作品は686点あり、一度に展示はできません。テーマを変更しながら常設展示できれば理想ですが、まずは、収蔵庫に収蔵して、年1回現在の特別展示室で1か月1ヶ月半公開したいと考えています。

(議 長) 西村公朝コレクションを今回は展示するというサブタイトルは付きませんか？

(副館長) 企画展として展覧会を開催し、テーマは毎回付ける事になると思います。

(議 長) 自然系ミュージアム等のイベントを催して、紫金山公園ビジターセンターに関連させて事業化を目指す方が、収蔵庫も予算的に獲得し易いと思います。今後の事業で計画的に収蔵庫やビジターセンターの意義を意識した提案・計画案がいいと思います。

(副館長) ・現状の収蔵庫は収納率が100%を超えており、新規資料の収蔵がかなわないため、西村公朝作品や旧西尾家住宅の所蔵品、年々増える発掘資料等を収蔵する必要性から計画化されています。ビジターセンターについては、自然や環境に関心が高い市民からの要望があり、夏季展示はビジターセンター整備を念頭に事業実績を重ねています。北大阪ミュージアム・ネットワークシンポジウムで自然系ミュージアムを取上げた理由は、自然系ミュージアムが多くネットワークに新規加盟したため実施するものです。

(議 長) 燻蒸のガス以外に保存処置の計画とか別の保存処置の予算要求等をする方針がありますか。

(事務局) 現在燻蒸のガスは、エキヒュームSを使っています。新しい燻蒸方法等はまだ検討していません。当面エキヒュームSで年2回燻蒸、3年に1回収蔵庫燻蒸で計画しています。

(議 長) 新しい処置方法はありますか？凍結とかあり得ますか？

(事務局) ・水害等泥や水に浸かった古文書類を一時凍らせ、フリーズドライして、解凍して泥を洗い落とすことがあります。普通の古文書を保存する方策ではないと思います。

(委 員) 「さわる」で要望と質問です。

・今まで企画展とさわる月間の開催が6月から7月にかけて3週間です。1か月ぐらいの会期を検討してください。また、さわる月間は、学芸員の研究成果を持ち寄るという説明がありました。具体的にどういうビジョンを考え検討しているのか、月間の担当者を毎年回すのか、企画展の担当者が担うのかお聞きします。

(事務局) ・会期は春季特別展と夏季展示の間であり、春季特別展のスタートを早くすれば1か月取ることも可能です。3週間に固定していません。暦も関係するので柔軟に対応します。さわる月間と企画

展の担当者は別です。担当は年度ごとに決めています。今後博物館のリニューアルも検討する中で、今年度から常設展示室とロビーを一体化出来るように、常設展の一部としてさわるコーナーをスタートしました。現在、ロビーは仏像レプリカと近代資料バスホールを展示しています。常設展示室には、土器に触れたり、クワをさわって体験できるコーナーがあります。考古、民俗、歴史、近代史の各々で検討を加えている段階です。

(委員)・さわる月間は、基本的に吹博が「さわる」ことに拘り、実践してきた事をアピールする機会です。さわる月間という形で今後実施していくのがベストとは思いません。「さわる」について、活動的なスタンスで続けていく意味・考えを検討してください。引き続き取組んでください。

(事務局)「さわる」について、常設化したことで1年中さわれるコーナーを設けますが、広報の機会、展示替えの情報をお知らせとして強化する期間としてさわる月間が必要だと考えています。当面継続して「さわる」ことを充実させます。

(議長)「さわる月間」はどういう形に特化していくのが一番好ましいのでしょうか。

(委員)月間を設けずに常設でさわるコンセプトが具現されていく形です。理想に至るまで館内外の意識を高めるという意味でさわる月間が必要です。月間を具体的にどう生かし、どんな内容にするのか一緒に考えたいと思います。

(議長)さわる月間でシュミレーション・テストされたものが好ましい形で常設展に組み込まれていくことで、さわる月間の位置づけが分かり易いと思います。それだと永遠にあっても良いと思います。

(委員)その流れがスムーズに行くのが理想です。そこに至るまでかなりの努力がいると思います。そういう流れになれば良いと思います。

(事務局)さわる月間が博物館の取組みをPRする機会になっています。障がいのある方から「さわって様々な体験が出来る展示を実施していますね。」という問い合わせがあります。PRしている結果だと思います。さわる月間のあり方やさわる月間をしなくても博物館に来て頂けることが広く衆知されればさわる月間の意味も変わってくると思います。

(委員)さわる展示に当館で初めて遭いました。是非そのメッカになって欲しいです。年を重ねると視覚だけでなく様々な機能が衰えます。博物館は、視覚に頼ってきましたが他の感覚器官が花開く所。この分野の礎となる場所と期待したいです。

(事務局)さわる展は、以前実験展示と呼んでいました。五感を駆使して体験することで実施していました。視覚に限らず様々な面でバリアフリー、ユニバーサルミュージアムに持って行きたいです。

(議長)利用者に感想を聞くと良いと思います。展示開発、リサーチでも良いと思います。

(委員)「竹田展」は、金子雪操・旧西尾家展等の一連の展示の集大成の一つになると考えます。学芸員の調査・研究の成果なので大事にしてください。大阪歴史博物館所蔵の「兼葭堂日記」の中に竹田があります。借りることを考えても良いと思います。見学会も竹田の巨大なお墓が夕陽丘にあります。おもしろい企画が出来ると思います。「室戸台風」展ですが、展示趣旨が吹田の小学校の話が中心になっています。メディアに関する展覧会になっていますが、室戸台風は、いろいろと語り継がれているので考えてください。

(議長)竹田展で刺激的なサブタイトルを考えていますか。室戸台風は、前知識が必要という事です。

(事務局)吹田の独自性をタイトルに出したいと考えています。委員からもアドバイスを頂ければと思います。今回のテーマとして、北大阪に縁のある画家や文人達を取上げるので、旅や交友が重要なポイントだと考えています。その辺りをプッシュアップ出来るタイトルを考えています。

(委員)・特別展等展示中期計画案で、30年度の春季特別展西村公朝展、企画展を考えていると説明がありました。29年度あたりから常設展として計画されているのが良いと思います。「西村公朝コレクション」を全面的に出すことで計画から実施へと流れが行くと思います。西村公朝コレクションで寄贈済み資料と予定される資料を判る範囲で数と内容を教えて頂けますか。

(事務局) ご家族がお持ちの資料(作品)を収蔵します。代表作の資料を収蔵できた際には、30年度の特別展で展示したいと思います。寄贈予定資料は、万全に保護できる収蔵庫等が整わないと具体的な寄贈等の話も決まりません。現状では借用という形で3階応接室に仏像を展示している他、3階ロビーにふれあい観音像を展示しています。

(委員) 今後、収蔵庫の増設で受入体制ができれば、寄贈の段階に移るといえるのでしょうか。

(事務局) 今回の収蔵庫増設は、作品や資料の受入れと密接に関係しています。増設できれば作品の収蔵を実施します。

(委員) 西村公朝コレクションを当館の看板として大きく取上げてください。

(副館長) 増設説明の場でも西村公朝作品が吹田市立博物館の将来像を考えた上で、如何に大事なのか十分説明しています。吹田市立博物館の新たな特徴ともなる可能性を含んでいます。

(議長) 和食と小学生による校区展示が具体的にイメージ出来ないので説明願います。

(副館長) 和食については和食が世界遺産に登録されましたので何かできないかという程度です。小学生校区展示は、小学校一校とタイアップして、学芸員がお手伝いして、児童に校区の歴史や特徴等の調べ学習に取り組んでもらい、その成果を博物館で公開できたらと考えています。

(議長) すぐにでも出来そうな感じがするのですが。

(委員) 小学2年生の生活科で校区巡りをし、調べたことを模造紙にまとめる取り組みをしています。博物館とタイアップして掲示まで出来るのか疑問です。昔のお祭りを調べる学習等に取り組んだ事があります。近隣の農家から農具を頂き、教室や下足ホールにネーミングをし、児童に見えるように設置しました。米づくりで稲刈りの後、足踏み式脱穀機や唐み等を使って体験活動をしました。昔の農機具を使って「むかしのくらしと学校」とリンクさせることは出来ると思います。自校で米づくりをしている学校もあります。農機具を使った出前授業は出来ます。出前授業の映像、写真やパネル展示であればやり易いと思います。

(副館長) 校区の特徴を壁に掲示するような平面だけではなく、モノを使った展示になればと考えていますが、学校の負担なども考えると簡単ではないと思います。

(議長) 琵琶湖博物館「みぞっこ探検」で各校区の水が琵琶湖のどこに辿るかレポートをさせたことがあります。和食で吹田の特産品はありませんか。

(副館長) 特産品はあまりありません。吹田限定ではなく、北大阪全域でお祭りに食べる特別なお寿司がありますが、それだけでは難しいです。和食という大きなテーマですので、どう吹田市立博物館としての展示内容になるか、どの視点からどう切り込んでいくのかある程度絞らないと難しいと思います。

(委員) 民芸館に北大路魯山人の星が丘茶寮系統の茶器があります。以前「すまいのミュージアム」がボランティアの方と江戸時代の料理本で食事を再現していました。ただ、厨房を作らないといけません。北大阪的には出来ると思います。

(委員) 和食とさわる展とも関係しますが、五感に訴える展示の話が出ました。和食の歴史、現在の和食のあり方とか見て学ぶ展示に加え、味覚に訴える意図があるのかなあと思いましたが、特に考

えていませんか。

(副館長) 例えば、料理学校の生徒さんとタイアップして出来ればいいのですが。そこまで考えに至っていません。検討させていただきます。

(委員) 漢方の先生が講演して、料理にどのように漢方が使用されているか話をしながら、料理を作るということを企業とタイアップしてやっています。そういう企画は物理的に難しいと思います。

(委員) 中学校で修学旅行先を1年前から調査をし、修学旅行後、グループで資料をまとめ、校内に掲示しているのを見ました。一生懸命調べた事を博物館で掲示して頂けたら保護者は足を運ぼうと思います。今年度実施された「吹田高校デー」について、121人の内訳を教えてください。また、どんな形で実施されたのか、29年度も実施予定ですが説明してください。

(副館長) 吹田高校との高博連携は、授業のひとコマとして生徒が来館して施設や展示を見学したり、学芸員の立場から博物館のあり方を話し合い発表といった内容でした。しかし、今年度から該当の授業がなくなったため、これまで充分できていなかった連携のもう1つの柱である博物館での文科系クラブの発表を行いました。美術部・イラスト部等のクラブ作品と授業での書道作品を講座室で展示しました。またダンス・演劇・軽音楽部等の活動成果を発表しました。お客様は、一般の方・吹田高校関係・保護者等です。

(委員) 来年度もこのような形で実施されるという事ですね。

(副館長) 高校の先生方と連携のあり方や吹田高校デーの内容について協議して、実施の予定です。

(議長) 小学校で出前授業を行い収穫・成果を博物館で発表をし、それがきっかけで話が発展する可能性があります。

(委員) 春季特別展「田能村竹田」展を立派な特別展にしてください。さわる展の五感を使って観賞を楽しむという主旨は賛成です。さわることは賛成ですが資料を破損したり、私物化することがあると思います。防衛策は講じられていますか。課題は多くありますが、さわることは是非続けて欲しいです。

(事務局)・土器の破損はあるかもしれませんが、防衛策は講じていません。さわっていいものは、壊れても仕方が無いと考えています。考古は、そういう面では他の資料とは違うと思います。常設展示の盗難に関しては警備員の巡回で対応しています。

(議長) 南山大学がリニューアルをして、観える所全部さわっても良いという話もあります。

#### 【5 案件(3) 課題討論(平成27年度事業点検・評価)】

事務局から点検評価のコメント概要を報告

討論

(委員) 採点評価の点数ですが、今回は10点満点形式でしたが、5点から10点にどういう経緯で変更になったのでしょうか。

(副館長) 昨年までは5点満点形式でした。5点満点より10点満点の方がよりきめ細やかな採点をして頂けると考えました。

(委員) 10点満点の方が採点が少し難しくなる。より細かく評価するためには、きめ細かい資料・内容が必要になると思います。頂いている資料だけでは分からない項目が多く、分からない項目は、博物館の自己評価採点を尊重して点数を付けることになると思います。従来5点満点の方が採点し易かったです。10点満点にすると10点は付け難い、同じく1、2、3も付け難いです。5点満点に戻して頂きたいと要望します。

(議長) 5段階の採点ですと1点と5点は避けるので、2・3・4点の三段階評価になるという面があ

ります。気になるのは、学芸研究会の9.15とJICA研修の9.23です。この点数だと多くの方が10点にしたこととなります。他ではかなり努力しているのに点数が低いのがあります。

(副館長)・JICAは、依頼されたものであり、点数の付け過ぎかと思いますが、悪い点にはならないと思います。学芸研究会は価値があります。今までなかった取組みです。継続していきたいと思いません。

(議長) JICAに評価を頂く方法もあると思います。外部委託で外部評価を頂くということです。満点を頂いたらJICAが満点にしているという説明が出来ます。

(委員) 学芸研究会は、今まで無かったので10点になっても良いと思います。今後どの様に継続されていくのか、長い目で見る必要があります。

(委員) 5段階で5が一番良い数字です。なぜ5点にするか理由が必要です。目標があり、その目標通り出来れば4で、それを越えた場合は5にする。明確な規約(内規)があります。5段階で外部評価を実施しました。5人の方が4をつけ、1人が3をつけると点数は4にはならない。3になります。10段階だとこれが細くなるので7になり、3割か6割は維持できるような数字の魔術があると思います。その辺りを整理した方が良いと思います。

(議長) 両論が出ました。5段階にすると採点基準を作った方が良いと思います。

(副館長) 5段階の時は、当初付け方のポイントを添付し明示していました。平成22年度に協議会からの答申内容ではA、B、Cの3段階評価でしたが、あまりにも段階(パターン)が少なすぎるということで5段階にしました。その時はポイントの付け方の目安を説明させて頂いていました。5段階に戻すのであれば、基準をきちんとご説明する形で実施します。

(委員) JICA研修の評価ですが、具体的な内容が詳しく分からない場合、自己評価で10点が付ていればそれを尊重するか、私は10点は付けないで9点を付けます。そういう平均が9.23になったと思います。10段階の数字の微妙なよさもあると思いますが、9と10は明らかに違います。9と8はどう違うのか8と7はどう違うのか、主観によって分かれるので5段階の方が採点し易いです。5段階で採点基準を明文化してある方が採点し易いです。

(議長) 自己評価の欄は、私が求めて書いて頂いています。自己評価点を書く時に事務局では、5段階と10段階どちらが付け易いですか。

(副館長) 10段階でも付けられます。良く分からない項目の採点で、採点しにくいのも分かります。そのため事務局の自己評価点に影響されている項目もあるかとは思いますが、JICAの例もありますが、結構厳しく採点しています。

(議長) 全般的にかなり辛い目の自己評価点だと思います。自己評価をする時、10点評価の内規を作った方が点数的に振れないと予測は出来ます。

(副館長) 必要であれば内部で相談させて頂きます。

(議長) 来年の前半まで時間があるので、それまでに事務局案を出して頂いたらと思います。

(館長)・自己評価点が全て偶数です。それは5段階を2倍化したことです。もう少し詳しい資料を付けることです。JICA研修の一週間の具体的な内容があれば一目瞭然です。資料をもう少し詳しくした方が良いという意見もあります。2、3回試行錯誤した方が良いと思います。微妙な差みたいなものが、どう取組んで、その成果がどう上がって、課題が何であるかを見て頂く資料を提供して、奇数の点数を付けて頂くことが可能だと思います。

(議長) 説明が詳しければなるほど文章が増えるので判読し難くなり、時間が掛かります。単純化

して、自己評価でも今年は前年度より頑張った印とか、記号に置き換えて、分かりやすい一覧表に出来ないかと提案します。今年はこのように頑張った、ここは頑張りが足らなかったというのが 5 段階、10 段階関係なく時間がかからず、見やすい工夫があると委員が判りやすく付け易いと思います。次回事務局案を出すことでよろしいでしょうか。

(副館長) 28 年度の評価からということでしょうか。内容が分からないので評価が付け難いと言われるのは理解できますが、この 2 回の協議会資料は結構細かくして配付させて頂きました。もう一度もっと詳しくとなると議長が言われるように煩雑になり、時間が掛かるのも分かります。記号化を図りながら内容がより判り易いコンパクトなものにすることでよろしいでしょうか。

(議長) 今回は 10 段階でよろしいでしょうか。

(委員) 勿論よろしいです。

(議長) 次回に持ち越させていただきます。これで第 2 回博物館協議会を終了させていただきます。